

庭木のお手入れ・水やり方法



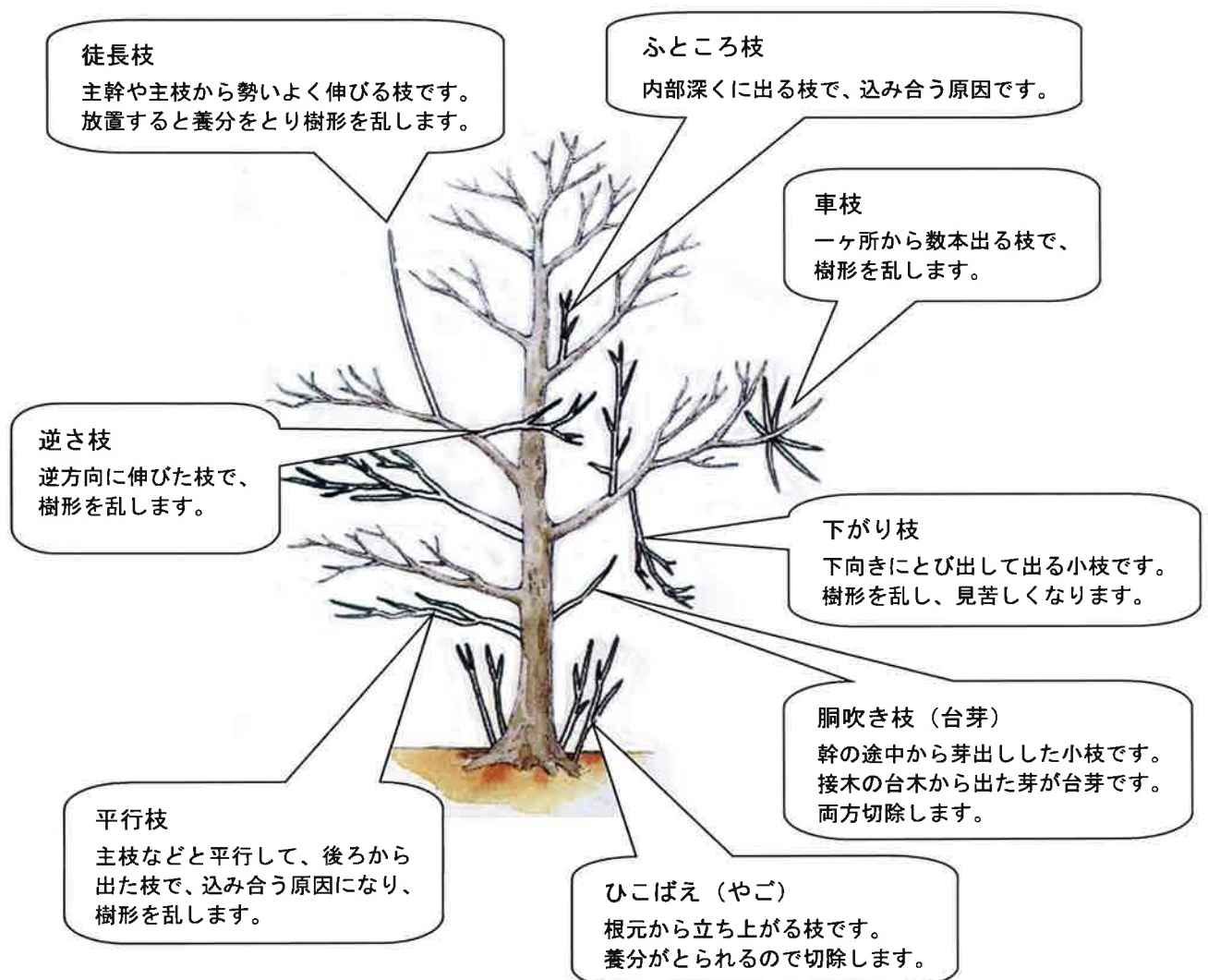
ツツミグリーン企画

以下はほんの一例にすぎませんが、ご自分でお手入れをなさる時の参考にさせていただければ幸いです。

剪定の基本

不要な枝を残したままにしておくと、正常な枝の生育をさまたげます。日照、通風に悪い影響があり、病害虫発生のお温床になります。

樹全体を見て不要な枝を切除することが剪定の基本です。



枝の切り方

○細い枝の切り方

よく切れる木ばさみか剪定ばさみを使います。芽の位置をよく確かめて、残す芽の上部から45度の角度で切ります。小枝を間引いたり、切除する場合は、必ず枝のつけ根いっぱいから切り取るようにします。

○中太枝の切り方

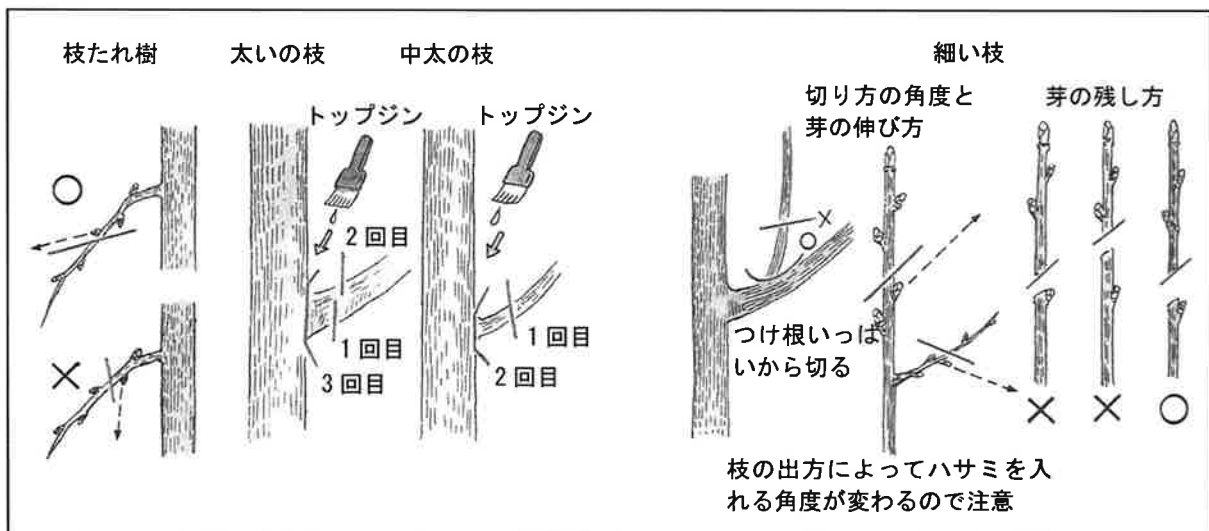
二度に分けて切ります。枝の途中から一度切り、次に枝の根元いっぱいから切ります。

○太い枝の切り方

上から一度に切ろうとすると、切っているうちに枝の重みでつけ根から裂けることがあるので、三回に分けて切ります。切り口から雑菌などが進入しないように、つぎロウ※などで保護しておきます。

○枝たれ樹の切り方

枝が外側に広がるように、外芽を残して切ります。内芽を伸ばすと樹形が乱れるので、注意して切ります。



※トップジン：殺菌剤です。切り口の乾燥・雨湿を防ぎ、切り口からの細菌などの侵入を防ぐために使います。

肥料の知識

植物が生育するには、いろいろな成分が必要です。自然に吸収される成分も多くありますが、特に大切なのが三大要素と呼ばれる窒素、リン酸、カリウムです。

○自然肥料と化学肥料

- ・ 自然肥料（有機肥料）：油粕や鶏糞のように、自然界にある動植物を原料とするものです。少しずつ長期に効く性質があるので、多少多めに与えても害になることはありません。
- ・ 化学肥料（無機肥料）：硫安や尿素などのように、化学的に生産されるものです。即効性があるので、与え方に注意が必要です。（与えすぎると植物を枯らせてしまいます。）

○三大要素の効き方

成分	効きく部位	含有する肥料
窒素（N）	葉	油粕、魚粕、堆肥、硫安、石灰窒素など
リン酸（P）	花・実	過リン酸石灰、鶏糞、骨粉、米ぬかなど
カリウム（K）	根	草木灰、硫酸カリ、塩化カリなど

代表的な害虫

- ・チャドクガ：幼虫の毒毛だけではなく、脱皮した抜け殻に触ると猛烈な痛みを伴いかぶれてしまいます。(ツバキやサザンカによくつく最も注意が必要な害虫です。)
- ・イラガ：毒毛に触れると感電したような痛みが走り、1、2日間は痛みが残ります。
- ・ホタルガ：幼虫に触ると、臭い液を出し、この液に触れるとかぶれます。
- ・アブラムシ：樹液を吸う害虫で、排泄物によってすす病が発生します。
- ・カイガラムシ：樹液を吸う害虫で、排泄物によってすす病が発生します。
- ・テッポウムシ：ゴマダラカミキリというカミキリムシの幼虫です。幹に穴を開け、樹木の内部を食べます。



チャドクガ



イラガ



ホタルガ



アブラムシ



カイガラムシ



テッポウムシ



ゴマダラカミキリ

害虫に対する薬剤としてはトレボン乳剤、オルトラン水和剤、スミチオン乳剤などの市販品があります。

注) ここで挙げた樹木の害虫はほんの一例です。

代表的な病気

病名	発生時期	症状	薬剤
うどんこ病	6～10月	葉にうどんの粉のような白色のカビが発生します。	トップジンM ベンレート
炭疽病	6～10月	葉や果実に褐色もしくは黒褐色の斑点が発生します。	トップジンM
もち病	5～6、8～9月	葉の裏が白くなり、餅の様に膨らみます。確認したらすぐに摘み取ってください。	ベンレート
すす病	周年	カイガラムシやアブラムシの排泄物などが付着することで発生します。葉や枝にすす状の黒いカビがつきます。 風通しや日当たりをよくして害虫の発生を防ぐことも大切です。	ベンレート



うどんこ病



炭疽病



もち病



すす病

注) ここで例に挙げた樹木に発生する病気や病気に効く薬剤は一例です。樹木を健康に保つために剪定や薬剤散布を行っておくことが大切です。樹木に異常を感じたときは専門店や庭師さんにご相談されることをお勧めいたします。

水やりについて

<方法>

水やりは、回数は少なく一度に時間をかけてたっぷり地中深くしみこむようにあげてください。

地中にしみ込んだ水を求めて根は深く、広く伸びていきます。

葉にはなるべく水を掛けないように！（湿り気を与える程度は構いません）
夏場は、葉が焼けてしまいます。

<水やりの目安>

～夏場～

朝はできるだけ早い時刻。（午前9時ごろまで）

夕方は陽が沈み始めるころ（午後4時～5時以降）

日中の水遣りは厳禁です。

～冬場～

晴天が続いたとき以外は、水やりの必要はありません。

晴天が続いたときは、たまに朝あげるようにしてください。

夕方にあげると、夜半の冷え込みで水が凍り、根を痛める場合が有ります。

* 春・秋に関しましては、上記、夏場・冬場を参考に水を上げて下さい。